



賢炭配合の土壌と未配合の土壌による作物生育の違い



稲作の粉炭施用実験（試験地：龍郷町秋名 荒田義雄さんの田圃）
8aの田んぼの半分4aに粉炭を100kg 施用。残りは粉炭未施用で栽培した

自社製の粉炭土壌改良剤「賢炭」の機能性を大幅向上するペレット化製品の開発

平成25年度 補正予算事業



実施した事業の概要と成果

奄美群島で多く栽培されているサトウキビ等の肥料として、生産農家の方々から評価を得ていた自社製品である粉炭土壌改良剤「賢炭」の機能性を向上させるため、同製品をペレット化した新製品を開発することを目的に補助事業を実施した。

本事業では、これまで粉状であった自社製品の粉炭土壌改良剤「賢炭」のペレット化と、これまで配合することができなかった有機成分を配合するため、ものづくり補助金を活用し、乾式ペレット成形機及び混合供給装置を導入した。

成果として、これまで粉状であるがゆえに、土壌になじむ前に風によりとばされてしまうことがあった製品が、ペレット化することにより土壌に滞留することが可能となり、均一な散布等と配合した有機成分により、従前以上の土壌改良の効果をを得ることができた。



賢炭が散布されたサトウキビ



賢炭が散布された畑



技術開発や課題解決への取り組み

自社で製品開発した粉状土壌改良剤「賢粉」は、粉状であるがゆえに、土壌になじむ前に風により飛ばされてしまうなど、均等な散布を行うことが課題となっていた。そこで、「賢炭」をペレット化することでこれらの課題解決に取り組んだ。

ペレット化は粉炭を押し固めるため、粉炭が溶け出しやすく、散布機に詰まらない固さにするための水分量や機能性を高めるための有機成分等の配合、調整を繰り返し行った。その結果、土壌に溶け込みやすく散布時に扱いやすい、ペレット状土壌改良材の開発に成功した。



粉状土壌改良剤 賢炭



ペレット化された土壌改良剤

事業者 株式会社 田中組

代表者 代表取締役 田中 昭吾

設立年月 昭和55年9月

所在地 〒8940512
奄美市笠利町中金久33-2
TEL: 0997-63-0162
FAX: 0997-63-2329
E-mail: amami.sumi@gmail.com
http://amamisumi.com/

事業区分 ものづくり技術

資本金額 2,000万円

従業員数 13人

業 種 総合工事業

株式会社 田中組 の

生魂

代表取締役
田中 昭吾



補助事業取り組みへのきっかけ・目的は？

サトウキビ栽培の肥料として、生産農家から評価を得ていた粉炭土壌改良剤「賢炭」であったが、散布時に風により流されてしまい、均等な散布ができないなどの相談を受けていた。これらの課題解決及び更なる性能及び機能強化を図ることを目的として、また、「賢炭」の改良がサトウキビ農家の経済的発展に繋がると確信し補助事業に取り組んだ。

今後の取り組みは？

奄美群島の主要な作物であるサトウキビの収穫量の増加に貢献し、強いては地域経済の振興に貢献できるよう、土壌改良剤を活用した際の成果についてPRを行っていく。また、現在は同一規格のみを製造している状況であるが、農家の要望等を取り入れた新たな製品開発が図れるよう事業活動を展開していく。